

「船承友好」鑑真号 2024年6月就航

2023年11月13日(月)、大阪港国際フェリーターミナルに着岸中の「新鑑真号」船上において、「日中友好条約締結45周年記念『船承友好』新鑑真号船上レセプション」が、中国駐大阪総領事館と中日国際輪渡有限公司の共催により開催されました。

冒頭のあいさつで薛剣総領事は、新鑑真号が30年にわたり日中の友好の懸け橋として活躍したことを讃えるとともに、現在建造中の「鑑真号」がその役割を引き継いでくれることを期待する旨のあいさつがありました。

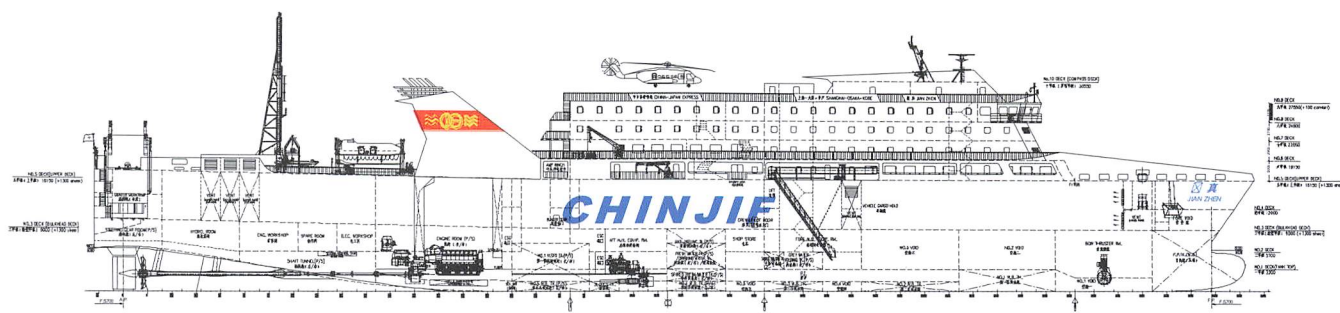
日中国際フェリー株式会社の村上光一社長からは現在就航している「新鑑真」が建造後30年になることから代替船の「鑑真号」(船名は「鑑真号」と決定している)をすでに招商局金陵船舶(威海)有限公司に発注し、2023年11月に進水し、現在順調に建造されている旨紹介されました。村上社長の説明の概要は次の通りです。



建造中の「鑑真号」

1. 主要項目

船長：167.2m、トン数：20,000GT (9,900JGT)、船籍：中国、速度：21 ノット、航続距離：4,500 海里
船員：48 人、旅客定員：192 人、コンテナ積載以数量：338TEU/142FEU、リーファー：60 プラグ



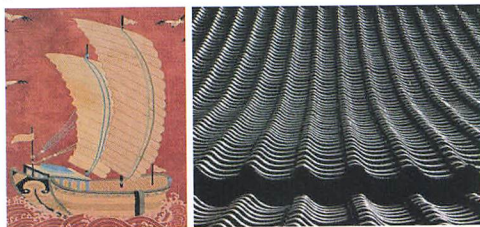
2.デザインコンセプト

- 鑑真和上東渡により、律宗、絵画、書道、建築、医術、食文化、刺繍、言語などが日本に広まった。
- 鑑真和上東渡による特色あるイメージが鑑真号船上での現代の日中文化と芸術交流の場となる。
- 鑑真号の文化特色を改めて定義し、生活様式による日中文化の交流を表現し、日中双方の国民の友情を育む。

3.デザイン手法

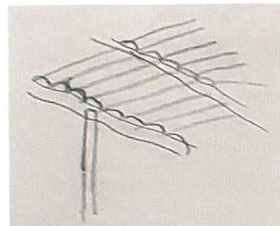
- 従来のホテルスタイルを打破し、鑑真和上の提唱する厳密な真理を求め、本質を極める思想を継承、そして賛同し、控えめで緻密、シンプルなスタイルを表現した。
- 現代の生活を基礎として時代が求めるものに応え、気楽さ、喜び、質素な2日間の船旅を堪能できる鑑真号での日中の文化特色を強調した。
- インテリアデザイン 合理性に添った空間に使用、多様性のある空間利用

【デザインの抽出】

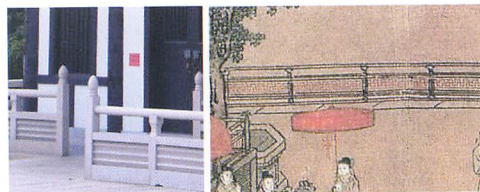


帆

屋根瓦

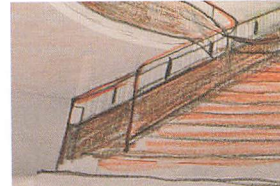


天井のデザイン



大明寺の欄干

唐欄干

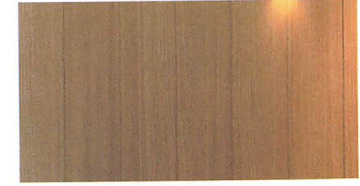
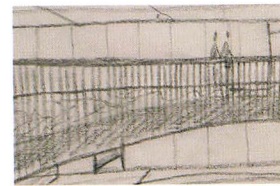


階段の手すり



船体の構造木板

古建築の木壁

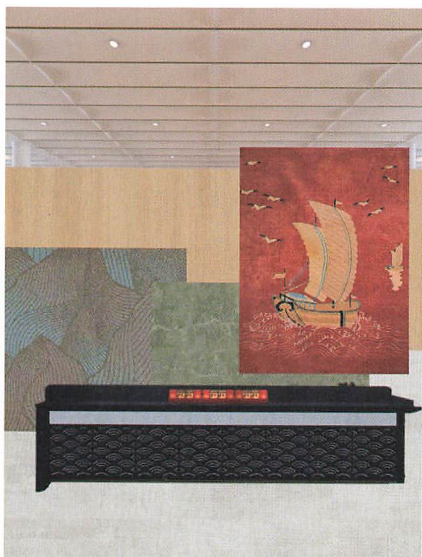


木目壁板

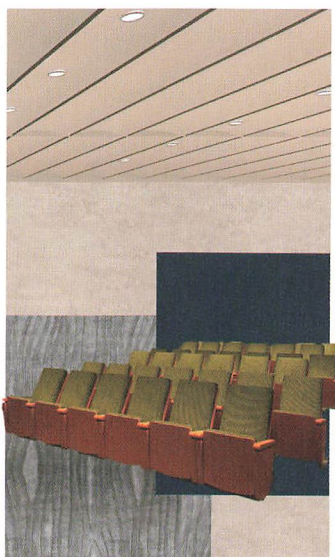
4.構造原則

- ブロック工法により、新時代の建築方式に対応する。
- 合理的な機能、経済性を総合的に考慮し、耐性に優れた材料を使用、メンテナンスも考慮し用途に応じた情景を強調する。
- 鑑真号の設計思想の特徴
造型:船と家屋の融合、色彩:唐の色を展開、家具・装飾:日中の文化を融合

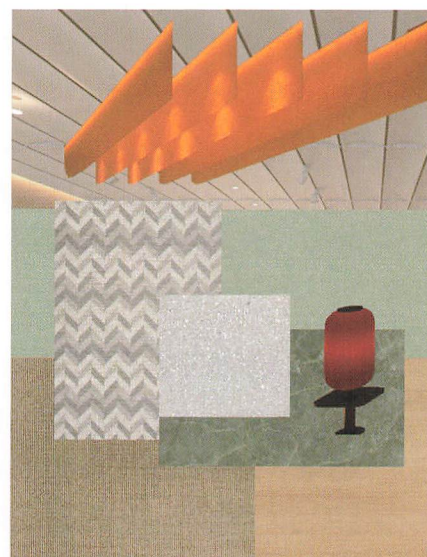
【色彩による雰囲気表現】



ホール
(理知:山川異域、風月同天)



劇場
(探索:夜航 探索之旅)



ラウンジ
(安静:曲径通幽处、禅房花木深)

